

トラジャ農村社会の構造分析

細 田 亜津子

要 旨

トラジャ社会は農村社会である。就労者の約80%が農業に従事しており、その他の就労者も兼業が多い。しかし、水田面積は全面積の約10%であり、二期作と棚田での収穫という厳しい現実である。水田形態は、Uma Mana、Uma Tongkonan と呼ぶ一族の共有田と個人所有とがある。共有田の収穫物は儀式など公的儀礼のために使用される。儀式での恩恵は一般大衆にも及び社会的役割を持つ水田である。また、地主と小作の関係は、先祖代々からの関係が多い。土地を所有しない小作は、他地域への出稼ぎを行う。伝統的な収穫物の分配は地主と小作は50% 50%が多く、第二期作は30% 70%になる。この地主 小作の元で働く農夫は、Ikat という稲束の単位により、稲刈りの労働に比例して報酬を受け取る。田植えについては、同じ報酬を受け取る。このように平等性と競争性を取り入れた社会である。一方、農村社会の諸規則は、儀礼との関連が強く、分配や遺産相続に影響する事もトラジャの特色である。

キーワード

農業社会、水田形態、地主 小作関係、分配と慣習

はじめに

本論は、インドネシア共和国南スラウェシ州タナ・トラジャ県に住みトラジャ族と呼ばれる人々の農村社会の構造を明らかにするものである。

トラジャの民族誌として先行研究がある（山下 1988）。トラジャ社会の儀礼、特に葬儀を分析し伝統的儀礼を体系的に解明したもので、トラジャ社会を動態的全体像として捉え、国家の視点までいれて論じたものである。一方、トラジャ族の象徴の一つである伝統的家屋、トンコナンを中心に建築学的、住居学的に解明したものも多数ある。これに関しては、特に Banua Toraja (Royal Tropical Institute Netherland 1986)、The Living House (Roxana Waterson 1993)、The Traditional Architecture of Indonesia (Barry Dawson/John Gillow 1994) など、欧米人による研究もまた優れたものがある。また、トラジャ族のルーツを倭族に結び

つける鳥越、若林の調査もある（鳥越・若林 1995）。この今日的動態の世界で生きているトラジャ族を静態的に対象化する倭族演繹論については、本論では言及しない。いずれにしろ、トラジャ族とその社会は研究の対象であることでは共通している。

本論は、上記先行研究を踏まえつつ、その基盤としての農業社会に中心をおく。農業社会の構造に中心をおくのは、儀礼、住居などはその規模や特徴が農業社会の基盤の上に構築され、儀礼や住居についての慣習は、農村社会との連関性が強いという理由による。また、フィールドワークの中で、タナ・トラジャでは生業としての稲作作業が細かな規則の基に行われており、これが、強制的というよりも一種の秩序をつくっていることに気づいたからである。農村社会の一つ一つの社会学的諸形態、水田所有、地主 小作の関係、借金と返済、分配の方法などそれぞれが諸儀礼と複雑に関連しあってい

る。この地域にやってくる外部の人間には非常に牧歌的に移る生業作業のなかに伝統的な制度的諸規則と慣習が存在する。

トラジャの農業社会の枠組み

トラジャ県の人口は、2003年には425,785人である（表1）。1982年334,180人、1996年380,295人2000年394,141人と確実に増加している。これは、1980年を1930年186,269人の77%増加（山下1988）しており、1930年の2倍以上ということになる。この人口増加に比較すると農村の耕作面積は、ほとんど拡大変化がない（表2）。耕作面積は、県総面積3,205.77km²約10%にも満たないものである。

近年インドネシア政府は移住を奨励している。人口稠密なジャワやバリからの移住者は、スラウェシ島の様々な地域に生活を始めている。トラジャ人は、特に中央スラウェシに多く稲作を生業とする農業に従事している。中央ス

ラウェシに移住者が多いのは、陸続きであることや稲作が可能であることに加え、キリスト教信仰の可能なことがあげられる。したがって先行者を頼っていく場合も多く、トラジャ人の共同体で暮らしているのは、州都マカッサルへの出稼ぎの場合と同じ傾向にある。マカッサル、ジャカルタなど国内への出稼ぎに加えマレーシアへの出稼ぎも多くなっている。これらトラジャ地域外への人々の移動はトラジャの生態系のバランスを考える上で興味深い。トラジャの人口が確実に増加しているのに比べ耕作面積の変化はなく、耕作面積の限界として考えると、当然の結果、人々の移動が生じたということになる。

行政区分としてのタナ・トラジャ県の枠組みは、Kabupaten Tana Toraja（タナ・トラジャ県）その下に Kecamatan（District）15、Desa（Villeges）116、Kelurahan（Wards）27、Dusun/Lingkungan（Orchard/Circles）889

表1 タナ・トラジャ県の人口推移

District & Year	1982	1985	1996	1997	1999	2000	2003
Bonggakaradeng	22,274	21,873	11,250	11,282	11,810	11,584	11,837
Mengkendek	35,535	37,632	41,861	41,818	45,269	44,381	49,927
Sangalla	22,930	23,169	24,418	24,675	25,011	21,319	22,264
Makale	39,674	42,789	45,867	45,927	49,059	48,476	51,014
Saluputti	45,768	46,755	46,995	47,011	46,469	31,919	34,033
Rindingallo	43,654	41,854	33,662	33,684	33,734	34,540	35,989
Rantepao	26,867	27,873	36,602	36,983	37,845	39,614	45,228
Sanggalangi	55,650	58,116	41,693	41,561	41,861	31,433	33,580
Sesean	41,768	42,228	24,319	22,693	23,539	23,349	24,510
Simbuang			12,255	12,284	12,355	11,918	15,982
Rante Tayo			24,664	26,430	23,676	24,462	27,746
Tondon Nanggala			18,521	18,602	17,615	18,047	19,736
Sa'dan Balusu			18,188	19,314	19,896	19,870	20,561
Bittuang						18,810	18,294
Buntao Rantebua						14,419	15,084
Total (person)	334,180	342,298	380,295	382,264	388,139	394,141	425,785

Source : Tana Toraja Dalam Angka 1986, 1998, 2000, 2003

Central Board of Statistic of Tana Toraja

（出所：タナ・トラジャ県統計局資料に基づき細田作成）

表2 タナ・トラジャ県の各 Kecamatan における耕作面積と収穫量

District	Wetland (Ha)	Not Wetland (Ha)	Total (Ha)	Production (Ton)
Bonggakaradeng	916	29,003	29,919	4,043.43
Mengkendek	2,391	28,146	30,537	13,234.83
Sangalla'	2,065	9,211	11,276	12,651.93
Makale	1,286	11,391	12,677	5,539.50
Saluputti	1,350	42,023	43,373	11,562.06
Rindingallo	1,762	45,238	47,000	9,080.84
Rantepao	1,246	2,254	3,500	8,195.80
Sanggalangi	2,167	7,833	10,000	8,317.13
Sesean	1,508	7,667	9,175	8,821.34
Simbuang	609	35,475	36,084	3,006.00
Rantetayo	1,915	19,183	21,098	7,363.00
Tondon Nanggala	1,384	10,616	12,000	9,012.90
Sa'dan Balusu	1,019	11,681	12,700	7,514.88
Bittuang	1,003	28,801	29,804	5,426.95
Buntao Rantebua	1,125	10,309	11,434	8,553.02
Total	21,746	298,831	320,577	122,325.61

Source : Tana Toraja Dalam Angka 2003, Food Crops Agriculture Service of Tana Toraja(タナ・トラジャ県統計資料に基づき細田作成)
 * ProductionのTonは籾米での計量である

である(2003年 表3)。行政区分の枠組みは、Desa の数が減り、Kecamatan の数が増えてきている。例えば、80年代 9 Kecamatan、96年13から15へと増えたのは、より近代化が進み統合化する他県とも共通する一般的傾向である。

このような国内他地域と同時進行する近代化と統合化の中で、トラジャは国の観光開発拠点地域になり開発が進んだ。その結果、トラジャ社会は、観光化による経済的効果が波及し、他地域に比較するとインフラの整備は進み雇用拡大も進んだ。その結果、国内においても、海外でもトラジャの名前は浸透し、トラジャ人としての自覚や誇り、換言すればアイデンティティの再生にも役立ったという側面がある(細田 1999)。

しかし、2001年 New York の同時多発テロ、これに次ぐ、バリ島デンパサール州クタのディスコ爆破でのオーストラリア人多数が死んだ事件などテロ脅威からインドネシアへの観光客は減少した。バリ島はもちろんのこと、タナ・トラジャ県への観光客も減少した。このように観

光客の減少により観光産業に従事する人々の収入の減少は現実であるが、農業社会基盤が崩れることはなかった。トラジャの場合、換金作物、特にコーヒーやココア、クロープなどの利益、出稼ぎの収入、出稼ぎからの送金などは葬儀の規模を支える投資になるという特徴がある(細田 1999)。従って、送金や利益投資による葬儀が派手になり、伝統的建造物トンコナンの新築増加現象などがあるが、基盤の農村社会の実態は維持されていた。この特徴は、収入の減少は、葬儀の規模を小さくすることで了解しており、葬儀を執行しないということではない。ここでの基盤の変化とは、開発に伴い農業からサービス業、工業に労働形態を変えてしまうということを意味する。

例えば、タナ・トラジャ県統計局資料によると、県人口のうち就労可能年齢以上で就労している者は、323,767人でありそのうち農業に従事している者は、244,893人である。農業従事者は全就労者の約76%を占める(表4)。ここで注意をしなければならないのは、その他の職

表3 タナ・トラジャ県内行政区分

Kecamatan (District)	Desa (Villeges)		Kelurahan (Words)		Dusun/Lingkungan (Orchard/Circles)
Year	1998	2003	1998	2003	
Bonggakaradeng	9	5	2		37
Mengkendek	23	15	5		86
Sangalla	9	6	5		35
Makale	18	2	10	12	74
Saluputti	21	10	7		73
Rindingallo	25	16	3		106
Rantepao	6		15	15	60
Sanggalangi	12	8	3		55
Sesean	17	10	2		63
Simbuang	13	6			56
Rante Tayo	20	10			76
Tondon Nanggala	13	10			37
Sa'dan Balusu	16	8			53
Bittuang	15	6			44
Buntao Rantebua	12	4			34
Total 2003		116		27	889
Total 1998	229		52		789
Total 2002		116		27	

Source : Tana Toraja Dalam Angka 2000 & 2003 : Central Board of Statistics of Tana Toraja (タナ・トラジャ県統計局資料により細田作成)

表4 職業別就労者数の推移

(単位 : 人)

Main Industry & Year	1999	2000	2001	2002	2003
Agriculture	139,686	126,313	96,063	103,350	244,893
Mining & Quarrying	542	164	135	151	582
Manufacturing Industry	1,422	3,278	2,316	1,946	2,024
Electricity, Gas & Water Supply			135	281	243
Construction	3,166	2,622	2,700	3,393	5,022
Trade	7,669	5,568	10,086	3,456	16,180
Transportation & Communication	1,558	4,015	4,887	2,076	7,631
Financing & Insurance	2,099		135	281	
Service	13,154	16,965	11,793	11,186	45,801
Other					1,391
Total	169,296	159,915	128,250	126,120	323,767

Source : Results of 2001 National Socio Economic Survey
Tana Toraja Dalam Angka 2003, Central Board of Statistics of Tana Toraja

業に従事している者、Manufacturing Industry、Construction、Trade、Transportation & Communication などは殆どが兼業で農業に従事しているということである。県の職員など行政職についている者も兼業が多い。しかし、

全県で農業、特に稲作が可能というわけではない。

タナ・トラジャ県の地形は、標高 600m ~ 1,600m で 2、3,000m 級の山々に囲まれている。この地形で標高の低いマカレ、ランテパオ

の県央、メンケンデックを中心とする県南部は水田が占める割合が多い(表2)。この地域または、この近郊地域は、水田の占める割合も多く、収穫量も多くなっている¹⁾。Mengkendek、Sangalla、Makale、Saluputti、Rantepao、Sanggalangi、Rantetayo、Tondon Nanggalaの水田合計は、13,804ha、75,877.15tonになる。また、南方 Enrekang 県との県境にある Bonggakaradeng、西方 Polewali Mamasa 県(現 Mamasa 県)との県境にある Rindingallo、Bituang などは水田面積が少なく、幾つも山越えをしなければならないくらい山地である。従って、主食である稲作栽培よりコーヒーや丁子、カカオなどの生産が多い。もちろん、稲作は行われている。前記県南、県央の地域を抜かせば、殆どの地域は広大な棚田にて稲作を行うのである。日本の平野での水田耕作のイメージからは程遠く、県南、県央であっても緩い傾斜の棚田式水田が広がっている。Sesean に広がる棚田は世界有数の規模の棚田であり、みごとな景観を作り出しているが、ここでは水田のあちこちに巨大な岩石がころがりこれらをよけて棚田を作っており、けっして好条件の耕作地とはいえない。したがって、タナ・トラジャ県においては、例えば山を崩して耕地にするような国策が行われるようなことがない限り、現在、限界まで耕作している状態である。

調査の背景と過程

当初マカレ、ランテパオを中心に稲作耕作を点検調査していた。タナ・トラジャ県では、平地に広がる水田の場合、米の二期作、三期作が可能である。したがって、同時に田植えと刈り入れを調査できる。また、休耕田にしている水田、田植え前の田起しをしている水田も同時に調査できる。県央部は比較的耕地面積の大きな水田が多く、数十名の女性や男性が田植え、稲刈りなど共同作業を行っている。農作業は、機械を使用しない手作業であり、これ自体民俗学的価値がある。また、これらの農作業は、マン

パワーで行い相互扶助である。この情景は、人の多さや、歌を歌いながらの作業は牧歌的であり、田園風景との景観は、特に、ヨーロッパ人には人気が高い。

収穫後、休耕田として水を張り、家屋の修復などに使う部材を浸け休耕田として使用される。この田が、再度田起しされる場合、耕運機などの機械を使うのではなく、農夫の足や手を使用して、田起しされる。この場合、トラジャでは収穫時において穂刈をするのが一般的であるが、鎌を使用した刈り入れ後でも茎は抜き取らずそのまま残しておくので、この茎を田起しの時は、水田の泥のなかに押し込み混ぜ合わせるのである。これを農夫が行う大変な労働である。トラジャ人によると、昔は水牛を使用していたとのことである²⁾。現在この作業を水牛が行うことはなく、農夫が行う。また、耕運機などの導入については、現在、県南、県央部にて機械使用が少しずつ増えてきた。しかし、トラジャ全体としてみれば、依然として人海戦術を行っている。県南、県央部の地主は、小作を雇う代わりに耕運機の方が、どんなに合理的であるかを力説するが、現実には耕運機導入は進んでいない。

県南、県央部以外の地域では、棚田が多く、この棚田での農作業を考慮すれば、耕運機より農夫の労働力のほうがはるかに効率的である。

で説明したように、トラジャ県の棚田は日本の棚田のような面積が比較的広い水田ではなく、傾斜もきつく、また、水田の中に岩石が転がっている。また、後述するがタナ・トラジャ県の棚田の場合、水田を担保に借金が取引され、狭い面積の水田が細かく区切られてしまうのである。例えば、1m 四方に満たない棚田もある。この小さな棚田でも稲作はなされている。従って、機械化、耕運機などでの作業はどうか、水牛でさえ使役できない状況が広がっている。もちろん、山地でも盆地であればかなりの水田面積の開墾は可能であるが、これは率にしたらかなり少なくなる。

一方、遺産相続した土地、親族の共有田がある。また、新たに開墾した田などが加わる。親族が所有する共有田には、現在生きている親族ではなく、先祖の土地に属する水田という概念がある。これは、現在の家族ではなく家族の創設者、出自集団の最初の先祖をさす伝統的家屋に収斂される家族、トラジャ族はトンコナンと呼ぶ家族の所有する水田という概念である。従って、現在耕作している水田は、この水田を耕作している夫婦と子供からなる家族の水田ではない場合もある。また、トラジャ全地域を考える場合、地域的な違いがある。例えば、相続分配率、収穫にたいする分配率などが違う。トラジャの水田の概念と実際を理解するには大変な忍耐が必要である。しかし、複雑な土地所有形態、地主と小作の分配率の地域的差異など現在でも水田をめぐる社会学的研究の宝庫である。

現地調査は県央、水田面積が広く平地で収穫量の豊かな Rantepao、Makale、Sanggalangi を中心に、山地で棚田の広がる Sesean、Rindingallo へと進めていった。ここで注意しなければならなかった事は、例えば、棚田での農作業をしている農夫に全体的なことを聞いてもあまりわからないということであった。山地に行くと、その地域の有力者は地主であり、村長をしており、この人に全体的な質問をするという作業を繰り返した。

なお、トラジャ県西方 Kabupaten Polewali Mamasa (ボレワリママサ県、現在はボレワリ県とママサ県に行政区は分離された) Mamasa での水田の所有についての調査も多少行った。また、同じく棚田の多いバリ島での聞き取りも多少行った³⁾。

伝統的水田形態について

上記の地域性を参考にしながら水田の概念と所有、収穫物の分配、農夫の賃金などについて整理分析していく。

トラジャの土地所有形態は祖先を共有するトンコナンに所属する水田、uma mana'、uma

tongkonan、uma garanto'、uma dianna と呼ばれる共有田と個人所有がある (山下 1988)。

Kecamatan Sanggalangi、Desa Kete Kesu の Tingting Sarungallo 氏の協力と聞き取り調査によると、uma mana'、uma tongkonan、uma garanto'、uma dianna は次のように整理できる。

uma mana' (ウマ・マナ uma はトラジャ語で水田の事)

伝統的に続く clan の big family がその長にその権利を与える。その権利を受け継いだ者 = 長は家族のために耕作することができる。その権利を受け継いだ者は生活のため、食事や行事にこの水田を使用できる。収穫物はランブ・ソロ = 葬儀、ランブ・トゥカ = 祝祭儀礼にその big family が使用するのが原則である。

実際、Tinting Sarungallo 氏は clan の中よりこの uma mana' の管理を任せられ耕作していた。この uma mana' は 25generation 以上引き継がれていた。もし、Sarungallo 氏がこの選ばれた長を辞めた場合は、uma mana' は clan の元に返却される。Sarungallo 氏によると、自分達の生活が保障されるかわりに耕作し、管理する義務がある、一種の insurance と考えられているとのことであった。

uma tongkonan (ウマ・トンコナン)

トラジャ人が clan の出自集団の祖先の家を意味する伝統的家屋 tongkonan と祖先を長とする家系のシンボルの意味をもたせたトンコナンと同一の意味を持つ水田で、自分達の家族のために使用することができる。平均的には 2 ha くらいの広さをもっている。地主は女性、男性とも双方ある。Sarungallo 氏の場合は、自分の母親から相続した水田を uma tongkonan として管理耕作していた。

uma garanto' (ウマ・ガラント)

結婚して新しい家を作るのと同じように新しい水田として機能し始める水田のこと。例えば、AとBが結婚してお互い水田を持っていた場合、それを一つにしたものを uma garanto' という。1 generation に限られるということであった。

uma dianna' (ウマ・ディアンナ)

現在はウマ・ディアンナとしての水田は存在しないということであった。それは、スカルノ政権からスハルト政権に、つまり共産主義政権からスハルト政権に移った時、形式上消滅した。これは共有田として貧者を救う意味があり、収穫物は貧者に与える水田であった。しかし、Sarongallo 氏によると、uma dianna は uma tongkonan として機能的に存在している。

聞き取りをした1999年、2000年当時、Sarongallo 氏は uma garanto' 1.5ha、uma mana' 2 ha、uma dianna が実質は uma tongkonan 2.5ha を所有管理していた。このような Sarongallo 氏のような伝統と名誉ある血筋の地主に比べ、多くの農夫は水田を所有していない。また、現在公務員でも水田を所有しており、小作を使役する人もいる。このように水田を所有・管理している Sarongallo 氏は大変だ大変だというのが口癖である。田植えと収穫の契約をどうするか、農夫の働きを管理し、能力に応じてその仕事を与えていくということが続くからである。また、農夫の賃金をどうするかなど水田耕作をめぐる諸問題が山積する⁴⁾。

Sarongallo 氏の水田では、例えば 1 ha で約 110人の労働投入、その 1 ha の水田からは米の収穫は約 3 ton である。農夫達はトラジャ語で orang mabinkung uma と言い、機械を使わない水田労働者のことである。この orang mabinkung uma の中でも、耕作能力の低い者を田の耕作 = 田起しにまわしたり、田植えにま

わしたりの判断を地主は行う。

トラジャ人の米消費量は非常に高く、一日約 500g を食べる。例えば、水田での労働が激しい場合は、二人で約 1 リットル、町部で労働が激しくない者は約 3 ~ 4 人で 1 リットルを食べる。トラジャでは、収穫した 12kg の籼米から平均約 7 kg の精米ができる。一般的にはトラジャ人は一人あたり 35kg を 2 ヶ月で食べるので、一人当たり年間 210kg 食べつくすことになる。トラジャ人の米の消費量を考えれば、トラジャ県内における水田での稲作だけでは十分な米の自給にはいたらないといえる。

トラジャ族の水田の形態は、clan = ある一族の繁栄を保障する地盤としての食糧の供給と儀礼時における米の供給をいかに保持していくかを視野にいれたものである。また、ある clan の元で暮らす多くの人々、伝統的に昔からその clan に従属する人々も含め最低の食と儀式の遂行を保障するようなシステムである。これは、現在も行われている。もちろん個人所有もあるが、前記 uma tongkonan、uma mana'、uma garanto' というトラジャ独特の形態とシステムは、水田所有と儀式遂行との双方が密接な関係性を持っているということである。なお、儀式については、本論では、水田形態と所有について関連することであれば論及するが、儀式の詳細について論じるものではない⁵⁾。

トラジャにおける水田作業のしくみ

1 トラジャの伝統的計測概念

トラジャにおける水田の伝統的計測方法は次のようになる。

便宜上、全体を 1 ha として計算する。

Sese' 1/2 0.5ha	Tepo 1/4 0.25ha
Leso 1/8 : 0.125ha	Bidang 1/16 : 0.0625ha

なお、聞き取り調査は、便宜上 1 ha を単位として行った。トラジャでは正確に 1 ha の水田に収穫できる米の量を産出計算できるわけではなかった。それは、地主は大小様々な水田を耕作、管理しているので、聞き取りの段階での正確な解答を要求すること自体困難だった。それでも聞き取りを重ねる中で概ねその収穫量を計測できる。しかし、収穫量は地域により大きな違いがあった。例えば、県央ケテケス村の前記 Sarongallo 氏の場合は、1 ha で約 3 トンであった。同じく県央マカレ周辺では 1 ha で約 6 トン、ほとんど平地がない棚田だけの Sesean 郡では 1 トン、また、トラジャ西方ママサ地域での聞き取りをした結果は、1 ha で約 6 トンの収穫があった。このようなばらつきはあるものの、伝統的計測法での配分は以下になる。

(単位：籾米トン)

伝統的計測法	Kete Kesu	Makale	Sesean	Mamasa
Sawa 1Ha	3ton	6	1	6
Sese' 1/2Ha	1.5ton	3	0.5	3
Tepo 1/4Ha	0.75ton	1.5	0.25	1.5
Leso 1/8Ha	0.375ton	0.75	0.125	0.75
Bidang 1/16Ha	0.1875ton	0.375	0.0625	0.375

この計測法は、例えばトラジャ人が水田を担保に借金をした場合、面積を知るためには必要である。例えば、bidang の借金をしたというような会話の中でその面積と収穫量から借金の規模が理解できることになる。また、トラジャ人は、1 ha を借金の担保にするということや 0.75ha を担保にするというような方法を用いない。つまり、ある水田の Sese' や Leso という単位で取り決めるのである。したがって、トラジャ人が使用しているトラジャ伝統の方法や言語を知り、その規模を知る必要がある。

2 稲作作業の過程と方法

トラジャにおける田植えから収穫までの作業行程は次のように行われる⁶⁾。

Panta'nakan 苗作り 約28～30日間

Pariu 田起し 田起しをする人 to pariu
Mantan 田植え 田植えをする人 to mantan

Mepare 稲刈り 稲刈りをする人 to mepare

tomauma 地主は、この作業の過程で地主と小作の関係を維持している。もちろん小規模ではあるが、個人所有の水田を個人で田植え、収穫することはある。しかしながら伝統的水田の地主と小作の関係は、大規模な水田を所有する tomauma の元で現在も行われている。

苗作りから収穫までの過程での労働投入は、各地域、水田の面積によって違いがあるが、1 ha につき約100名は必要である。

Makale の地主 Paris 氏の聞き取りでは次のようになる。

Panta'nakan 2人

Mantan 30人

Pariu 20人

Mepare 40人

県央サンガランギ郡ケテ・ケス村 Sarongallo 氏もほぼ同じ、110人であった。また、同じく県央ランテパオの地主 Salurapa 氏は、所有する 2～3 ha で田植えに約200人、収穫刈りに約150人であった。

トラジャの地主と小作関係について

地主と小作の関係性

トラジャ県における地主と小作の関係は、先祖代々から地主である家族の clan の大地主とそのもとでの小作がいる。この小作も自分の土地を所有している小作と土地を所有していない小作とがいる。その上で tomauma-tomatesan = 地主と小作の関係がある。また地主は稲作作業をその収穫物を分配することで成立する tomauma-tomendule の関係がある。いわゆる分益小作である。この分益小作とこの分益小作が雇用する農夫との関係も成立する。

関係 1 は、地主と小作の関係で、先祖の代から小作の関係にある農民もいる。また、地主は

関係 1	関係 2	関係 3
To Mauma 地主	To Mauma 地主	To Mauma 地主
		To Matesan 小作
To Matesan 小作 (To Pariu)	To Mendule 分益小作 (To Pariu)	To Pariu 農夫

直接何人も農夫を臨時に雇い小作させることもある。

関係 2 は、地主は、直接小作を使用し稲作作業一連を行うのではなく、地主との関係性の中で、非常に信用のある誰かに地主の所有する水田の管理、稲作作業一連を依頼するのである。依頼された人物は、この管理・作業を執り行う。その結果、収穫物は地主と50% 50%で分配する。依頼された分益小作は、自ら稲作作業を行わずに pariu = 農夫を雇い収穫する。この場合は分益の中から Mendule が Pariu に支払うもので、ここにおいて To Mendule と To Pariu の関係が成立することになる。

関係 3 は、地主の地域に昔から住んで地主との関係を作っている小作である。トラジャでは99%この形式である。例えば、トラジャでの聞き取りでは、To Mendule と To Matesan は同じ意味で使用しているという答えが多く、現在は、To Mendule と To Matesan は同じ概念で使用されている。しかし、トラジャの場合は、地主とこの地主と昔からの関係を作っている小作は地域性が強く、そこでの地主 小作の関係は、To Mauma-To Matesan になる。ただし、地主が他地域に広がる水田を所有し、これを同時に管理する場合は、To Mendule が成立する。この場合は、そこで雇われる農夫にとっては To Mendule であっても To Matesan である。

さらに関係 3 は地主 小作関係に農夫が雇われるという関係である。いずれの関係でも To Pariu は臨時で雇われるか、契約で雇われる。To Pariu は一箇所の地主に固執することなく他地域まで出稼ぎに行く。

分配について

まず始めに To Pariu の賃金の推移を整理する⁷⁾。

年度	日当(ルピア)	附帯条件	地 域
1998	8,000	食事、コーヒー、タバコ	県央 Kete Kesu
1999	10,000	食事、コーヒー、タバコ	Rindingallo
2000	15,000	食事、コーヒー、タバコ	Sesean
2000	20,000 (男性) 15,000 (女性)	食事、コーヒー、タバコ タバコはなし	Rantepao
2001	15,000	食事、コーヒー、タバコ	Makale
2004	20,000 (男性) 15,000 (女性)	食事、コーヒー、タバコ タバコはなし	Kete Kesu

(出所：聞き取り調査を元に細田作成)

賃金は、地域によって差がある。県央で政治と商業の中心地である Makale、Rantepao、また、インドネシア政府の観光開発政策による観光化の中心地となっている Rantepao とその周辺、特に Kete Kesu 村近郊では賃金上昇が毎年生じている。この地域は平野が広がり、その稲作作業風景も観光の対象になり、観光開発が進んでいる地域でもある。したがって観光関連産業に従事する人も増え、平野であるがゆえに人手不足という事態が生じている。

また、前記したようにトラジャ人の米の消費は多く、日当のほかに食事をだす場合でも、大量の米飯、惣菜を必要とするのである。

次に、地主と小作の分配とそれに農夫が加わった場合の分配について分析する。

1945年頃は、To Mauma - To Matesan の分配率は5/8 3/8であったが、1990年頃より50%

50%になった。この八分は前記水田分割 Leso 概念のことである。この50% 50%の分配率はほぼ県内全域で認められた。ただし、第

1945年頃	1990年～	第一収穫期	第二収穫期	例外	小作間分配
5/8 62.5%	50%	50%	1/3 30%	80%	50%
			2/3 70%		
	50%	50%			50% 10人の場合は 小作 5%分配
3/8 37.5%				20%	

一収穫期は50% 50%で分配し、第二収穫期には To Mauma-To Matesan の分配率は約30% 70%と逆転する。この分配率の逆転は、地主と小作の関係を考える際、人手不足による小作優位などという傾向より地主の社会的福祉的慣習の側面が大きいと考える。

例外で示した80% 20%の分配率は、Kete Kesu、Sarongallo 氏が以前行っていたもので、80%の中には、田起しの時に使用する肥料（有機肥料も含む）代、税金、三度の食事、コーヒーと茶菓、タバコなどを全部地主が負担していた。もちろん20%の分配でも小作は十分に生活出来るとのことであった。この比率も現在では50% 50%に変化した。地主の一連管理と負担率を考えると50% 50%分配率のほうがわかりやすく、負担が少ないということであった。

分配率50% 50%は、例外で示したような肥料、農薬代、税金など地主 小作双方で負担折半する方式であり、これはトラジャの地主 小作関係を考える場合重要なことである。

なお最後に示した50% 50%の小作が10人の場合は、それを分配することであり、5人の場合は10%で分配するという意味である。To Mauma-To Matesan の関係で、To Matesan は To Pariu を雇うことが多いので、この分配率は平等に分配されるのがトラジャの方法であ

る⁸⁾。

稲作での複雑な分配と慣習

トラジャにおける水田耕作では、リットル、トンの概念を使用するのではなく、Ikat = イカット = 束（Ikat は糸の意味でこれを紐にして束ねた一束のことである）を使用する。Ikat の単位は約直径 3 cm の小さな束を 1 Ikat Kucil とする。

この 1 Ikat Kuchi を 5 束（5 Ikat Kucil）にしたものを 1 Ikat Besar として 1 Ikat として標準の単位とする。Ikat の単位は Ikat Kucil を単位にしている地域と、Sesean、Rindinggallo などは Ikat Besar を単位としている地域がある。

簡単にわかり易い方法で説明すると次のようになる。

例 1：例えば To Mauma-To Matesan の関係が50% 50%の場合

水田の面積が 1ha とする。収穫できた稲束が 20,000 Ikat Kucil であった場合。

A 氏 地主 8325 Ikat

B 氏 小作 8325 Ikat

100 Ikat 肥料代金

200 Ikat 田植えの代金

50 Ikat 税金

350 Ikat 合計費用として双方が負担するため差し引く

$20,000 - 100 + 200 + 50 = 19,650 \div 2 = 8,325$

Ikat

もし第二収穫がある場合は、同じように費用を差し引いた上で、地主は1/3、小作2/3となるので地主は 6,550 Ikat、小作は 13,100 Ikat となる。

例 2：次に Mepare 稲刈りに農夫を雇用するのを前提にした場合の分配は概ね次のようになる。

例として To Mauma-To Matesan に To Mepare として To Pariu A、B、C、D、Eを雇う。

To Mepare のために収穫の20%は分配のために確保しておく。

Pariu 農夫	Mepare (Ikat) 稲刈り	Gagi (Ikat) 分配	Mantan 田植え	Gadi 分配
A	100	20	100	10
B	50	10	50	10
C	20	4	20	10
D	100	20	100	10
E	10	2	10	10

稲刈りの分配は、確保した20%、つまり仕事量の20%を現物支給するのである。刈り取った合計が 280 Ikat Besar であると、そこから 56 Ikat を 差 し 引 い た 224 Ikat Besar が To Mauma-To Matesan が50% 50% で 分 配 す る。

このように分配は、つまり労働報酬として受け取れる稲束は労働者の働く能力、適応力、技術などにより稲刈りの段階で格差をつけながら支払う。しかし、田植えの場合は、労働量や技術、能力に格差をつけることなく、10 Ikat を全員に分配するのである。この分配の 10 Ikat が 20 Ikat の場合もあるが、トラジャ人はこれを Social、社会性とか福祉性とか呼んで当然の事柄として双方が受け入れている。一般的には 10~20 Ikat というのが平均であった。また、刈り入れの際に、上記CやE(4、2 Ikat)を 10 Ikat で平均化する例もあった。もちろん分配 Ikat の多いほうを社会性が高いと認められる。

これから、トラジャにおいては労働過程で社会的平等性を保ちつつ、能力や技術などで能力主義を取り入れて格差をうまくつけ、そのバランスを保っているのが大きな特徴である。

外から田植えや稲刈りをながめている限りでは、牧歌的で平等な報酬を受け取っているように見えるが、熾烈な能力主義である。しかし、平等性を保っているのも多くの土地を所有しない小作が農業に依存しているからである。

水田を媒介にする儀礼と借り入れの慣習について

本論では、遺産相続での水田分配の仕組みと、トラジャでは Mentoe と称する水田を担保にした現金の借り入れについて、本論との関連で簡単な説明を試みる。これらは、トラジャの重要な儀礼である葬儀との関係を切り離すことはできない。

遺産相続での水田の分配は、地域により多少の違いはある。また、地主が所有する水田の面積、規模によっても違いがある。

最も伝統的慣習に基づく遺産相続は、葬儀における水牛の供出頭数により遺産相続の比率をきめる。例えば、親の葬儀に三人の子供A、B、Cが水牛を3頭、1頭、1頭供出した場合は、相続の水田は3：1：1の比率で分配されるのである。なお、トラジャにおいては、水牛の種類、大きさ、模様の違い、角の長さ、などにより、その価値が明確にランク付けされている⁹⁾。従って、供出された水牛によってもその価値が違ってくるので、単純に3：1：1という比率にはならない。しかし、一般的には標準価値の水牛の供出頭数ということで考えれば、3：1：1の分配は成立する。

最近では、この供出頭数に依拠することなく子供の遺産相続は平等に行っている地域もあり、今後、儀式との関連性がどう変化するのか調査を継続していきたいと考える。

Mentoe という慣習は、なんらかの理由で現金が必要になった場合、水田を担保にして借金をすることである。この場合、水田の所有権はそのまま借金をした側にある。しかし、担保にした水田からの収穫物は借りた相手のものになる。借金を返済する場合は、借りた金額相当分の水牛を返済し、貸し手はこの水牛を現金に換えて返金が終了したときに借金が相殺されるのである。しかしながら、トラジャの場合は、借金は子供や孫の代まで引き継がれていくのは珍しいことではない。現在生きている人たちは、先祖の借金を返済していることも通例としてよ

くある。

おわりに

本論では、トラジャ社会は農業社会であるという前提を証明すること。さらに農業社会内部での地主と小作の関係を水田と労働を媒介にしてどのような構造になっているのかを明解にすることにあてた。その関係性は、地主と土地との紐帯性が強いのか、弱いのかを解明するものでもあった。トラジャの地形的特色は、稲作に適した平野が広がるという地形ではなく、山間盆地を利用した耕作、さらに自然石などが随所に転がり、それらを避けるようにして棚田を作っているのが現状である。トラジャ人の米の消費量、儀礼での使用などを考慮すると、人口に比較して米の供給量は十分とはいえない。全人口の約80%は農業に従事している。しかし、このうち地主より小作が圧倒的に多い。小作でも土地を所有している者と土地を所有しない小作とがいるが、後者の方が多い。

また、トラジャ族のように伝統的形態を色濃く残し、儀礼や相互扶助を重視する社会では、能力主義などとは無縁の農村社会であると想像されることが比較的多い。しかし、本論で解明したことは、農業を生業とするトラジャ人労働者の中ではその労働量と技術での格差があり、それに見合った報酬を受け取る。また、地主はその農夫＝小作の能力と技術に応じて仕事の種類と過程を決定するということが行われている。

水田作業、Panta'nakan-Pariu-Mantanán-Mepare という過程は日本の稲作と同じである。この作業過程の中で、地主 小作関係、To Mauma-To Matesan-To Pariu が生じる。To Mauma-To Matesan、To Mauma-To Matesan-To Pariu の関係は、伝統的に、先祖代々からの関係が多いが、To Pariu に関しては、他の水田の仕事、他地域への出稼ぎなど労働移動は広範囲になる。

トラジャの水田形態の特色は、個人所有以外

の Uma Garanto'、Uma Mana'、Uma Tongkonan のような社会的役割を持った水田の存在である。Uma Mana'、Uma Tongkonan は先祖代々の clan を軸にした公共の目的のために管理使用される共有田である。この使用目的は、儀式などの公的儀礼のためであるため、この恩恵にあずかるものは一つの clan にとどまるものではなく、一般大衆に及ぶ。したがってトラジャには、個人所有の水田も存在し、社会的役割を持つ水田も存在する。

このような水田形態とは別に地主が所有する水田で地主と小作の関係は、現在でも継続し、伝統的形式を踏襲する方法で分配が行われている。現在、To Mauma-To Matesan の分配率は50% 50%が最も多く、この比率も第二次収穫は、1/3 2/3になり、To Matesan の分配率が保障される仕組みになっている。また、このTo Mauma-To Matesan のもとで働くTo Pariu の賃金は、Ikat を単位とする労働に対して報酬が行われる。この他に、前記したように、日当と食事やコーヒー、タバコの供与がある。ただし、田植えに関しては、より平等性を重視した同率の分配を行っている。

このように、トラジャでは、稲作の全過程のどこかに平等性を維持しつつ、個人の資質や技術をいかせるような競争性をとりいれている。この場合、To Pariu の最低生活を保障するようなシステムである。また、儀礼を確保するような公共性を含意したシステムをもった農村社会である。

一方、To Matesan, To Pariu とともにTo Maumaに依存して生活が成立するという点も見逃すことができない。この依存し、依存されるという関係は、水田の共有田や分配の方法の中で、平等性を取り入れつつ厳密な規則のもとに農村社会が成立しているからである。

本論は、水田の所有形態、分配方法などを基本的に農村社会がある規則を有しているという点を明確にした。この上で、社会全体の中で、執り行われる葬儀、儀礼での分配、借金の返済方

法である水田と水牛の価値交換など伝統的な慣習には諸規則が存在する。また、トラジャ人にとっては、その価値の測り方として重要な水牛や豚などについても細かな伝統的規則の基本がある。これらを総合的に裏付けるような論は今後展開するつもりである。

注

- 1) 文中、及び表中での収穫量は初米での計量を意味する。以下の文中も同じ意味である。
- 2) 現在水牛は、葬儀のために殺される目的に使用されるので、水田での使役は行われていない。Sarongallo 氏の聞き取り調査では、70年代には水牛の使役を見たとのこと。
- 3) 本論では、字数制限のため言及できない。
- 4) 小作との契約は収穫後、次の耕作を始める前に行うのが一般的である。
- 5) この葬儀については、山下 1988に詳しい。
- 6) いずれもトラジャ語である。
- 7) 現在ルピアは1円や約65～85ルピアで推移している。
- 8) ただし mendule の場合は、ほとんど水田労働をする人は少ない。
- 9) 水牛、豚のランクと価値については、調査済であるが本論では言及できない。

参考文献

- Kis-Jovak, Jowa I., Nooy-Palm, H. Schefold, R and Ursula Schulz-Dornburg [1986] Banua Toraja - Canging Patterns in architecture and Symbolism among Sa'dan Toraja Sulawesi Indonesia, Royal Tropical Institute Netherland
- Dowson, Barry and John Gillow [1994] The Traditional Architecture of Indonesia, Thames and Hudson Ltd., London
- Waterson, Roxana [1993] The Living House-An Anthropology of Architecture in South-East Asia, Oxford University Press
- Indonesian Heritage No.6 [1998] Architecture,

- Archipelago Press
- Indonesian Heritage No.9 [1998] Religion and Ritual, Archipelago Press
- Kantor Statistik Kabupaten Tana Toraja [1987] Tana Torada Dalam Angka 1986
- Kantor Statistik Kabupaten Tana Toraja [2000] Tana Toraja Dalam Angka 1999, 2000, 2003 タナ・トラジャ県統計資料、1986年度版、2000年度版、2001年度版、2003年度版
- 法政大学比較経済研究所、村串仁三郎・安江孝司編 [1999]、『レジャーと現代社会』 インドネシア観光開発と伝統社会、細田亜津子、法政大学出版社
- 山下晋司 [1988] 『儀礼の政治学』 弘文堂
- 鳥越憲三郎・若林弘子 [1995] 『倭族トラジャ』 大修館書店
- 細田亜津子 [2001] 『長崎国際大学論叢』 第1巻 伝統社会の適応と社会変容、インドネシア・南スラウェシ州トラジャ族の事例研究 長崎国際大学研究センター
- 細田亜津子 [2002] 『長崎国際大学論叢』 第2巻 国際援助における「地域性」の問題 長崎国際大学研究センター
- 細田亜津子 [2003] 『長崎国際大学論叢』 第3巻 タナ・トラジャ県における現代ツーリズム動向と今後の課題、日・仏ツーリズム比較研究 長崎国際大学研究センター
- 細田亜津子 [2003] 『琉球列島・社会的文化的ネットワークの研究』 文部科学省研究助成金による研究中間報告書：山岳民族と海洋島嶼民族の共時的紐帯性の研究、トラジャ族と沖縄民族の文化的社会的ネットワーク構築と継承の方法 法政大学沖縄文化研究所
- 細田亜津子 [2004] 『琉球列島における社会的、文化的ネットワークの形成と変容に関する総合的研究』、研究課題番号13410060成果報告書 山岳民族と海洋島嶼民族のネットワーク構築と継承、トラジャ族と沖縄民族の比較を中心として 法政大学沖縄文化研究所